

ギリシャ語で“星”を意味する『アステール』という社名の不動産会社。社員寮や社宅専門の仲介業に特化して、着実に業績を挙げている。地元を離れて新しい土地での生活を始める社員にとって、寮や社宅は必要不可欠なもの。そんな物件を紹介する事で、新たな人生を歩む人の道標として輝く。



三波豊和:お客様は寮や社宅を借りたい方、そして貸したい方の両方なんですか？

鈴木明彦:はい。当社は独自のネットワークで、寮や社宅などの仲介業務を専門に扱っています。エリアは首都圏全般です。

三波:普通、寮や社宅は会社が所有しているものだと思っていました。

鈴木:最近では、自社の社員寮を売却して借りる会社が増えています。バブル崩壊後、経営のスリム化で不要な不動産を持たないようにしているのだと思います。しかし、社員の福利厚生として、特に優秀な社員を確保する為には社員寮が必要です。

三波:賃貸といっても寮だと何部屋も必要になりますよね。そんなに都合よく空き部屋があるものなんですか？

鈴木:やはり個人でお探しになるのは難しいと思います。会社の担当者も他の仕事を抱えているので、物件探しだけにかかわっている訳にはいきません。そこで、私共のような専門の不動産会社をご利用いただく訳です。何といっても情報量が違いますから、ご要望に沿った間取りや部屋数を確保できます。いかに貸し出せる部屋の情報を集められるかが、この仕事の最も重要な所ですね。

三波:プロならではの情報網がある訳ですね。

鈴木:各方面から空き部屋情報を確保していますが、狙い目はこれから建築予定の新築物件です。一棟まるごと借りる事も可能ですし、大企業になると新築物件という条件が付く場合もあるんですよ。オーナーさん側にも建築後の借主が確実に確保でき、入居や退去や更新といった手続きが一括できるとご好評をいただいています。

三波:不動産業界にも、様々な市場があるものなんですね。

鈴木:今はシステムキッチンやバスがついている物件が主流ですが、ひと昔前の寮はトイレやお風呂は共同でした。そうしたタイプの寮は次々と解約されていますが、実は新たなニーズが発生しているのです。共有のお風呂とトイレは介護に適していて、高齢者向けの施設として借りたいという需要が増えています。今後は、こうしたご要望にもお応えできるよう努力して行きたいと思っています。

